



岩谷 司議員

一般質問

● 関診療所の今後の運営と通院患者の交通アクセスについて

答弁：総合的に勘案し、今年度上半期中には、存続可能か否かの決断をしなければならないと考えている。

《岩谷議員》

昨今、関診療所エリアの住民から「関診療所が閉鎖されるのではないか」と不安視する声が聞こえてくる。

現在関診療所は、週3日(月・水・金)の午前中に診療が行われ、そのうち2日は町外の医師が診療を担当している。地域住民は、町外の医師がいなくなった後のことを一番心配しているように思う。

今後、数年以内に関診療所閉鎖を考えているのか。従来通り、町外からの医師を確保しつつ、継続して診療を続けていくのか。

《町長》

関診療所継続の問題点については、2人の代診医から、居住地からの距離も遠く、高齢・多忙を理由に度々辞退の申し出があり、その都度懇願し、今日まで診療を続けてきたが、来年度はかなり難しい状況になっている。また、代診医だけで診察を行っている現在の診療体制を問題視する関係機関もある。



▲関診療所待合室の様子

代診医だけの診療では、医療のクオリティ(質)が確保できないこと、1つの自治体で2か所の診療所を運営することは、一般的に財政面・人員確保の面でも大変であること、医師を集約化し、病院機能を強化している診療所であれば医師が疲弊してしまうことなどから、県病の「地域医療支援部」としては医師派遣が難しいとの意向である。

これらを総合的に勘案し、今年度上半期中には、存続可能か否かの決断をしなければならぬと考えている。なお、民間等で関診療所を運営していただける方があれば、今以上に好条件を提示し、公設民営化に向け働きかけたい。引き続き情報発信していきたい。

《岩谷議員》

深浦診療所が開設し、田野沢地区から大間越地区まで深浦診療所への通院バスが運行され、多くの住民が利用しているが、関診療所への通院バスは運行されていない。

若し人と同居している人は、それなりの交通手段が確保され不便なく移動できるが、高齢者だけの世帯はそれすらままなら

ない。

関診療所エリアでも高齢化が進み、加えて自動車運転免許証を返納する人が増えている現状を踏まえ、関診療所への通院バス運行を決断すべきと思うが、町長の考えは。

《町長》

昨年度、深浦診療所を開設したことに伴い、町全体として診療所への送迎バス運行を大きく見直した。

バスの運行委託先である㈱ふかうら開発と合意のもと、関診療所については、柳田・岩坂方面の患者さんには、週1回のゆとり送迎バスを利用して通院していただき、帰りは診療所職員が対応すること、現在も利用可能となっている。

関診療所は、1日におおむね20人の方々が通院しているが、その内、徒歩で通院している患者さんは数人程度であり、関・北金ヶ沢地区で徒歩が困難な患者さんについては、従来どおり職員で対応可能であると考えている。

街灯のない箇所にある町のゴミ収集箱対策について

《今議員》

5月の大型連休中、柳田地区のゴミ収集箱にコンビニ袋に入ったゴミが投入されていた。近所の住民が、町指定ゴミ袋に分別し直し対応したと聞いている。

このような町外の人によるゴミ不法投棄の事例は、まだまだあると推察できる。

今は、夜間ゴミ収集箱に近づくとセンサーが感知し、点灯するような電灯もあることから、善良な町民が迷惑を被らないよう、何らかの対策を講じることはできないか。

《町長》

町指定以外の袋を使用したゴミ集積箱へのゴミの投棄については、昨年度4件確認され、いずれも観光シーズン中となっている。場所は、キャンプ場付近や国道沿い、人目に付きにくいゴミ集積箱への



▲不法投棄があったゴミ集積箱(柳田地区)

投棄が多く、観光の帰りに捨てられたものと推測される。対策として、不法投棄を監視している旨の表示や、町民以外の使用を禁止する旨を表示し、地区住民とゴミ収集委託者に対し、不法投棄を見つけた場合はすぐに連絡するよう依頼している。今年度は、以前不法投棄が確認されたゴミ集積箱設置箇所を重点的に巡視したいと考えている。

農道小島崎線の延伸について

《岩谷議員》

岩坂地区の生活基盤は、県道石動種里線1本にすべてを委ねられ、迂回路の設置要望も何度となく提出されているが、今だアクションが起これていないように見受けられる。財政的な要因が大きいことは想像できるが、同地区入口付近で火災が発生した場合、消火活動が難航することは容易に予測できる。

現在、「しらかみのさと」入口から小島崎184番地付近までの農道小島崎線が供用されていることから、この農道を川沿いに横塚地区のカーブまで延伸できないものか。農道延伸について、町単独で行えないのであれば、県道の迂回路として県と協議するか、地元住民や地権者と話し合い、必要な用地を提供してい



▲左側が小島崎184番地付近に続く農道小島崎線 右側が県道種里町柳田線(岩坂地区)

補助事業の採択要件に該当しないのが現状であり、生活道路の新設を実施するにも町単独事業で整備しなければならぬことから、費用対効果を考慮すると早急に整備できない状況にある。



▲横塚地区のカーブ付近まで延伸が望まれる農道小島崎線(岩坂地区)



▲県道種里町柳田線の迂回路として整備を  
考えている林道石動線入口(岩坂地区)

近く現地踏査<sup>ちやんさ</sup>を行いたい。  
これに加え、県道種里町柳田線のカーブ改良と狭い箇所<sup>せま</sup>の拡幅を解消することにより、地区内の道路環境が改善されるものと考えている。  
今後とも、地区住民が安全で安心して暮らせるよう迂回路の整備についても、前向きに検討してまいります。



▲横塚地区の上まで伸びている林道石動線(岩坂地区)

### 北金ヶ沢榊原地区 海側の側溝改良について

#### 《岩谷議員》

北金ヶ沢榊原地区旧大戸瀬漁協製氷庫の海側に小公園があり、公園と防波堤の境に、厚さ8センチメートル・幅50センチメートル・長さ1メートルのコンクリート製の蓋が

かけられた側溝がある。この側溝の蓋は、大人2人でも持ち上げることができない重さである。この地区の住民は、数年前、豪雨によって側溝から水があふれ、床上・床下浸水被害を受けた経緯がある。そこで、コンクリート製の蓋を、容易に持ち上げることができ、側溝の掃除がしやすくなるようグレーチング製に変えられないものか。

#### 《町長》

指摘の場所については、平成26年の大雨による洪水で浸水した場所であり、その後、青森県が榊原川流末の海岸護岸の拡張工事を行ったところである。

その後も、ゲリラ豪雨により浸水被害を受ける寸前まで水位が上昇する状況が発生したことを深刻に受け止め、護岸を貫通しているヒューム管の拡張工事を県に要望しており、今般、鱒ヶ沢道路河川事務所に確認したところ、既に平成30年度において工事の設計は完了し、実施時期は未定

であるが、今年度中に着工する予定との回答を得た。また、側溝の蓋についても県工事で併せ流末付近の一部側溝の蓋をグレーチング製へ取替えをし、周辺地区住民が安心して暮らせる環境づくりに取り組んでいく。

#### グレーチングとは

一般的には、道路の排水路にかける鋼材を格子<sup>こうし</sup>状に組んだ側溝蓋で、素材は鉄(亜鉛メッキ)、ステンレス、アルミニウム、FRP製などがあります。

